

国際ロータリー第2510地区
2008～2009年度

ガバナー月信

No.11
2009
5

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510
2008-2009
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



国際ロータリー第2510地区

2008～2009年度 ガバナー 矢橋 温郎 HARUO YAHASHI

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F

TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512 e-mail:rid2510@nifty.com

ホームページ: <http://www.ri2510.gr.jp>



R国際協議会(カルフォルニア、サンディエゴ)にて

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510

目次

CONTENTS

- 1 ————— ガバナーメッセージ
- 2 ————— 国際ロータリー第2510地区協議会報告
- 4 ————— 私の“Rotary Notes”
薄れゆく神への畏れ
- 6 ————— ガバナー補佐レポート
第6グループ・クラブ紹介
- 7 ————— 第10・11グループ合同 IM開催報告
- 10 ————— 特別寄稿
日本における正三の“職業倫理観”とロータリーの“職業奉仕”
- 12 ————— 第19回 日本ロータリー親睦ゴルフ(JGFR)北海道大会開催のご案内
第28回 全国ロータリークラブ甲子園親睦野球大会出場決定戦のお知らせ
- 13 ————— ロータリー財団寄付/米山記念奨学会寄付/文庫通信
- 14 ————— 新入会員のご紹介/訃報
- 15 ————— 出席率・会員数
- 16 ————— 地区カレンダー(5月・6月)
- 17 ————— 例会曜日・例会時間・例会場の変更等について



ガバナーメッセージ

ロータリーを終わらせないためにも

国際ロータリー第2510地区
ガバナー 矢橋 温郎
(札幌西RC)

ちょっと衝撃的なタイトルで気を引いてみました。実際のところ、今年度の事業は残り2ヶ月でほぼ終わりがかけています。今回の地区協議会が済んで、次年度のRIテーマ「ロータリーの未来はあなたの手の中に」が地区内に浸透しているところです。さて今年度のテーマはなんだったでしょう。そういえば昨年度のテーマは。答えられるのは、当該年度のガバナーだけかも知れません。

ノミニー、エレクトと、ガバナーに近づくにつれ、やりたいことをどうやって実現させようかと、老いた脳細胞を奮い立たせます。それは楽しい準備期間でもあり、不安も伴います。えてして不安の部分が現実になります。ガバナーは、敬意を表されても権力者ではありません。そのことが、ガバナーになるとよくわかります。思い通りにならないことは多々あります。細かい事業だけではなく、基本方針さえも揺るがされます。当然やるべきことが実現できない、させようとしないうロータリアンが少なからずおります。語弊を恐れずに表すれば、絶望感を抱く事があります。

ガバナーの動きは、すべてガバナー事務所ですべてまとめています。上半期は公式訪問で埋まります。下半期もIMや周年式典など、ある程度の予定が年度始めから入っています。それを確認もせずに行事を組み立てる委員会が多々あります。打診があっても先約があれば、残念ながら欠席せざるを得ません。それは当たり前踏む手順です。既に行事日程は決まっておき、事務所に伝えてみたら行事が重なっていた。それではガバナーは出席できません。日程変更の努力も無く、それを企図して、つまりガバナーを端からはずして行事を進めようという魂胆だとしたら、ガバナー軽視も甚だしいと曲解致しかねない事もあるかも知れません。

こうした話題は、他地区でも聞かれます。どのガバナーも、全方位に通じているわけではありません。不得手な分野もあります。新世代に疎いガバナーの多くが、インターアクトやローターアクトからの情報がまったく無いのに違和感を覚えています。とりわけ事後報告で済ませてしまいます。尋ねれば「だってガバナーは若者に興味ないでしょう」。これを優しい言葉に翻訳すると「新世代の行事でガバナーのお手を煩わせるのめいかなものかと思ひまして」という事かなとも思われます。確かに行き違いがあったのかもしれませんが。新世代活動をあからさまに下位に見るガバナーもいました。そういう年度が続いて、新世代側が辟易して「もうガバナーには頼まない」となったのなら、不幸なことです。しかし、手続きは手続きです。RACやIACの予算編成はガバナーの仕事ですし、交換学生が行くにも来るにもガバナーが国際的な責任を負います。月信を読んだら、ガバナーが知らない地区行事の報告が掲載されている事があります。この事態がおかしいと感じられないのでは、おかしい。おかしいと感じられないロータリアンが、若者に何を教えるのか疑問を感じます。

数年前の受入学生の歓迎会の事です。ガバナーが挨拶をしている足元で、派遣・受入学生らはあぐらをかいて座っていました。地区青少年交換委員は誰も注意しません。見かねた出席者の一人が直接、学生に立つよう促しました。学生らは渋々立ち上がりました。

インターネットで「ロータリー」「留学」と検索してみると、派遣候補生の赤裸々な心情がブログに綴られています。ロータリーへの感謝は、1割。あとは「ロータリークラブとかいうのがタダで留学させてくれるらしくてラッキー」「どうせ金持ちの道楽」。赤裸々もここまで来るとお見事です。オリエンテーションでしっかり研修を受けてもらわねば。と思ったら「つまらない。ロータリーなんて嫌い。でも来日している留学生たちと会えるのは楽しみ」。これは全国的な傾向の様です。帰国しても例会に報告に来ない学生もいます。大勢の関係者に物心両面で支援してもらってまで続ける事業なのでしょうか。

昔も好々爺というのはいました。一方で頑固親父、雷オヤジというものも存在しました。礼儀をわきまえない若者に喝を入れる役割を担う大人がいました。新世代活動は、若者を甘やかす事業だと誤解している向きも見られます。このおかしい事業が定着するようでは、ロータリーも終わりです。

何か新世代攻撃になってしまいました。負の部分の具体例を取上げてみました。来月号では楽しい話を書こうと思ったので、敢えて今月号はネガティブな話題を取上げてみました。御容赦下さい。

国際ロータリー第2510地区協議会報告

地区協議会実行委員長 篠島 弘
(滝川IRC)

去る4月12日(日)、午前10時より、滝川市に於いて地区協議会を開催しました。

メイン会場を滝川ホテル三浦華園に、サブ会場にはホテルスエヒロを利用して行いました。午前中の全体会議では、ジョン・ケニーRI会長エレクトの“The Future of Rotary is in Your Hands”「ロータリーの未来はあなたの手の中に」という国際ロータリーのテーマを受けて、第2510地区渡邊恭久ガバナーエレクトは「環境・人・子どもに目を向けよう」という基本方針を示されました。そして、この次年度RI第2510地区の基本方針を説明の後、4つの重点目標を掲げられました。これらの内容についてはガバナー月信No.10(4月号)の8~9頁に掲載されており重複するので割愛します。

次いで、塚原房樹次期地区研修リーダー(PDG)による「ロータリークラブは心の住まい」という演題で、ロータリー哲学を拝聴させて頂きました。

午後からは、会長、幹事、クラブ奉仕部門の3分科会は三浦華園で、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕部門の3分科会はホテルスエヒロに移動して約2時間の間、討議をしていただきました。

分科会終了後は再度、三浦華園に集合し、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の4大奉仕部門の各リーダーから分科会報告があり、矢橋温郎DGによるガバナー所感、渡邊恭久DGEの謝辞の後、予定の時間内に地区協議会を閉会しました。

滝川市には大きな建造物が無いため分科会の会場を三浦華園とホテルスエヒロの2ヶ所で実施しなければならず、会場間の移動に関しまして参加者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。また、今回の地区協議会の運営にあたり、リーダー、サブリーダー、アドバイザーを務めていただきました地区役員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

なお、地区協議会の前日4月11日(土)、午後5時よりホテルスエヒロに於いて地区協議会打合せ会、懇親会、その後の二次会を開催したことを付記しておきます。





渡邊恭久ガバナーエレクト



塚原房樹次期地区研修リーダー（PDG）





薄れゆく神への畏れ

国際ロータリー第2510地区

パストガバナー 塚原 房樹

(札幌東RC)

《ロータリーと資本主義》

米山梅吉氏の三男、米山桂三氏は伝記「ロータリーと父米山梅吉」の中で、ロータリーの歴史について次のような記述をされています。「ロータリー運動というものは社会経済史的に見て、それは資本主義の発達という歴史的必然と資本主義の欠陥を救おうとする人物の出現という歴史的偶然との交錯したところで生まれた運動であると考えている」

もちろん資本主義の欠陥を救おうとする人物とはロータリーの創始者Paul Harrisを指しています。アメリカでは19世紀末から20世紀の初頭にかけて資本主義経済が独占資本主義の段階に達しつつありました。そのため資本主義の欠陥も現れて、労使の対立、抗争も激しくなりました。このような事態の下では、当時としては中産階級を地盤に、労使協調主義や社会改良思想が生まれてくるのは当然でした。Paul Harrisが親しい友人3人と語り、何か社会のためになるような仕事のできる集まりを始めようとしたのが、ロータリーの誕生となりました。ちょうどその時が初期資本主義最盛期の1905年であったことは興味あるところです。ロータリーは誕生のその時から資本主義の欠陥を補う宿命にあったのです。ではPaul Harrisとその仲間達は、どのような手法で資本主義の暴れ馬に手綱をかけようとしたのでしょうか。

《ロータリーは神を抜いたピューリタニズム》

Paul Harrisは、「ロータリーは決して宗教でもなければその代用物でもない。それは古くから存在する道徳観念の現生活における、ことに職業生活における実践にほかならない」と述べました。アメリカで生まれたロータリーはキリスト教のピューリタニズムがベースです。しかしPaul Harrisはロータリーの信仰の自由を表明するため、キリスト教のにおいを消そうと努めました。そこで「ピューリタンの戒律」を「古くから存在する道徳観念」と表現しています。幸い古来すべての宗教に内包している道徳観念は、盗む勿れ、殺す勿れ、姦淫する勿れ、貪る勿れ、嘘をつく勿れという5ヶ条でした。これらは人間の欲望の自戒を説いており、実践活動の指導原理に置き換えると正直、献身、誠意、友愛、寛容、勤勉、隣人愛となるでしょう。ロータリーの草創期一握りのロータリアンたちは資本主義の中で生活しなければならないので、まずその過激な商業上の生存競争の勝利者にならなければなりません。当時のロータリアンたちは皆ピューリタンでした。そこで劣悪な資本家に対抗するために、彼らはその競争の手段としてあくまで正直、勤勉を前提とし、友愛を根本とした企業経営をおこない、商業道徳を上げるということに専念しました。そしてその商業道徳の高揚による行動が信用を生み、やがて自己の企業に利益をもたらし、資本主義の世界で勝利者となっていきました。初期のロータリアンたちは企業経営にキリスト教の教えを実践していったのです。

《薄れゆく神への畏れ》

以前私は自分のガバナー月信に、ロケット開発の父として有名な糸川英夫博士の次のような言葉を紹介しました。「日本の科学には神との緊張感が無い。なぜならニュートンの力学やアインシュタインの相対性理論を取り入れた時、背後にある神は置き去りにしてしまった。政治も経済も同じで、日本では失敗しても神への倫理的責任はあまり問われない」と云われました。ロータリーも同じです。ロータリーは本来中世キリスト教神学の復興運動であります。日本にやって来た時には背後にある神は置き去りにされました。先に触れたようにロータリーはピューリタンの戒律を一般生活の中で道徳として実践しようとする運動であります。特にアメリカは日常生活の中に神が遍在しています。ちなみにアメリカの全てのドル紙幣の裏には「In God We Trust (神に我々は信を置く)」というフレーズが印刷されています。社会の関係性が成立することを保証する主体が神であります。またアメリカ国歌、政治家のスピーチの中にも神に言及する表現が多くあります。ロータリークラブの例会を教会の日曜ごとの礼拝になぞらえることは飛躍しすぎることかもしれません。しかしロータリーの哲学とその組織を考えると、両者が果たしている役割には、共通したものがまったく無いとは言い切れません。哲学と宗教は紙一重です。アメリカのロータリアンの中には日曜ごとの礼拝に欠かさず出ている人はたくさんいるでしょう。彼らは教会の他にロータリークラブの例会にも出ています。ところが幸か不幸か我々の多数はほとんど日常、宗教に関心を持っておりません。その結果、現代の社会は、「物と心」の乖離により嘆かわしい倒錯の世相になりました。戦後、GHQは教育基本法を作り、歴史や文化、伝統、宗教を否定し続けてきたのが原因です。特に宗教観の欠如により、自分の思想で自分を律することをやめた日本人は哲学を失い、ふわふわ波間を漂う根無し草となってしまいました。私は無理やり宗教心を植え付けなくてはならないと言っているのではありません。しかし今の資本主義社会の中で、一つのプレーキとして働くのは宗教意識です。五木寛之氏の言葉を借りると今回の100年に一度といわれる金融不安はかつてアメリカ人の持っていた「神への畏れ」が崩壊したから起きたのです。強欲になり傲慢になってしまったわけです。「金融工学はまやかしかつた」というより「神なき金融工学が崩壊した」のです。個人の意思を離れて怒涛のように動き回るグローバリズムの中でどのように行動することが、合理的であり、倫理的であるのか、ロータリーはここに新しい行動基準を探し求めなければならないのです。

現在の世界は、資本の論理で動いている世界です。端的に言えば金もうけに向かってすべての人が進んでゆく世界だということです。資本の論理はあくまでも論理であってそれ自体何も悪いことはありません。悪いのはその論理のみを是として神を抹殺したことです。

ロータリーに奉仕というコンセプトをもたらしたシェルドン哲学の特徴はデカルトが中世神学とたもとを分かってから250年の歳月を経ている時代に「偉大な未知なるもの」人間を超越するものの存在を認識していることでした。シェルドンは「もしかりに神なる言葉を好まない人があればその代わりに”プロビデンス”と呼んでもよい。森羅万象が存在すれば、それを作ったものがあるはずでありそれがプロビデンスすなわち造物主である。万物に秩序と掟を命ずる宇宙の摂理、つまり自然界の法則も、人間界の法則も等しく天地の理法から免れないものと考えます」と言いました。資本の論理で動いている今の世界に、もしシェルドンの「最も奉仕するもの、最も多く報いられる」「超我の奉仕」という2つの標語が実践されなければ人は住むことはできないでしょう。



第6グループ・クラブ紹介

地区ガバナー補佐（第6グループ担当）

佐藤 泰視

（岩内RC）

第6グループのエリアは丁度、後志支庁のエリアと重なり、7クラブの端と端では車で2時間以上の距離となります。その為か7クラブが一堂に会するのはIMの時ぐらいとなっておりますが、それぞれが特徴を持ったロータリー活動の歴史を積み重ねています。各クラブを歴史の長い順にご紹介します。

1番目は勿論小樽RCです。昨年の11月に創立75周年（1933年、昭和8年12月12日創立）の式典を終えました。谷内会長は「楽しいクラブでありたい」とこの1年を頑張っております。又CLPの導入の準備を進めクラブの更なる飛躍を目指しております。

2番目は小樽南RCです。来年創立50周年（1960年、昭和35年2月5日創立）を迎えるクラブです。今年度は福島会長の元、クラブの充実と四大奉仕の効果的な実践を目指し、又2年間の検討委員会の後、今年度CLPを導入、活気に溢れ、今年グループ内で最も例会出席率の良いクラブです。

3番目は余市RCです。1961年（昭和36年4月29日）創立で会員数は現在40名。CLPを導入して2年目のクラブですが組織編成を大きく3つに別け、中に会員研修委員会があり成果に注目しています。本多会長の「奉仕の実践はロータリアン一人一人が自分の出来る事をするだけで良い」は感じる言葉です。

4番目は岩内RCです。1962年（昭和37年4月10日）創立で会員数は現在22名と最盛期の半分以下と残念ながら低迷しています。今年度永井会長は「感動を共有できる活動を！」をテーマに、クラブの活性化は例会を楽しく、事業への参加が楽しくなる事がメンバーの満足感、達成感となり、「会員増強・退会防止」に繋がる頑張り、又今年度IM開催クラブとし頑張っておりました。

5番目は倶知安RCです。1964年（昭和39年12月3日）創立のクラブです。会員数は現在45名中4名の女性会員と3名のオーストラリア人がいます。世界的経済不況の中、まだまだ元気なニセコ地区を擁して活発な地域起こし事業、奉仕活動をしています。斎藤会長は今年度スタート前の昨年6月にご結婚し、新婚生活とロータリークラブ会長と多忙な毎日です。

6番目は蘭越RCです。1968年（昭和43年4月22日）創立のクラブです。会員数11名と小さなクラブですが、本間会長を中心に全員参加型の事業をしていくまとまりのあるクラブです。継続事業もこの地域でなくてはならないものとなり、まさに必要とされるクラブとなっております。又当地区のWCSにも積極的に参加しており、今年度創立40周年を迎え記念事業としてタイ国ノンカイRCのクリーンウォータープロジェクト事業にも参加しています。

7番目が小樽銭函RCです。1975年（昭和50年9月18日）創立のクラブです。会員数は現在22名とクラブは大きくはありませんが、地域に根ざした社会奉仕を中心に頑張っております。又、櫻場会長は会員の親睦を一番として家族会、5回のパークゴルフ大会と会員相互の融和、親睦に努めています。

以上で紹介を終わりますが、各クラブが会員、家族の親睦に活動のウエイトが重くなっているようです。5月を迎え矢橋ガバナー年度も終盤となりました。ガバナー補佐としての責務をとて全うできたとは思えませんが、お会いできた皆さんから沢山の勉強をさせて戴きました。ありがとうございました。

第10・11グループ合同 IM開催報告

ガバナー補佐（第11グループ担当） **光銭 裕二**
（函館五稜郭RC）

国際ロータリー第2510地区 第10・11グループの合同IMは、2009年4月4日（土）午後3時より矢橋温郎ガバナー、酒井正人パストガバナー、第3グループ担当吉野顕隆ガバナー補佐ならびに大金武夫地区代表幹事ご臨席のもと、七飯RC（第10グループ）・函館五稜郭RC（第11グループ）をホストクラブとして、ホテル函館ロイヤルに於いて開催されました。参加ロータリアンは第10・11グループの会員数387名のうち、257名と多数のご参加を頂きました。さらに当日、ロータリアンのご紹介でシンポジウムだけでも参加させてほしいという方も数名いらしたことから、テーマが話題性に富むものであったことをうかがわせました。

定刻午後3時の点鐘に始まり、国歌ならびにロータリーソング「奉仕の理想」斉唱後、能戸彰IM運営委員長による「開会の言葉」ホストクラブ函館五稜郭RC阿彦治会長の「歓迎の言葉」へと続けました。その後ご来賓及び参加クラブのご紹介、IMリーダー挨拶のち矢橋温郎ガバナーよりご挨拶を頂きました。

すでにご存知のとおり今年度の国際ロータリーのテーマは「夢をかたちに」で、先に開催された地区大会のテーマは「北海道その夢」でした。そこで当グループのテーマもそれを受けて「道南圏その夢：新幹線が拓く道南の未来」としシンポジウムを開催いたしました。シンポジウムのメンバーは

- コーディネーター：公立はこだて未来大学教授 長野 彰先生
- コメンテーター：北海道大学大学院水産科学研究院客員教授
東京穀物商品取引所理事長 渡辺 好明氏
- パネリスト：北海道大学大学院水産科学研究院特任准教授
古屋 温美先生
- パネリスト：北海道商工会議所連合会政策企画部主幹
福井 邦幸氏
- パネリスト：函館バス（株）代表取締役社長、函館RC会員
寺坂 伊佐夫氏

以上の皆様にお話し、2015年新函館駅への新幹線開通に伴って道南圏がどのように変わる必要があるのか、函館が札幌への単なる通過駅にならないための対策はあるかなど、ただ夢を抱くだけではなく、その夢を形にするために新幹線が拓く道南の未来をパネリストの方に報告していただき、合わせて私達ロータリアンに何ができるのかを考えてみることにしました。



《パネリストからの報告》

※古屋 温美先生：

「新幹線の新たな活用—水産物輸送の可能性と道南地域への効果について」

現在水産物の多くはトラック（青函フェリー）と高速道路を經由して首都圏へ輸送され、悪天候によるフェリーの遅延・欠航などの定時性に問題を抱えている。さらに道南地域の郡部では出荷した水産物が首都圏の競りにかけられるのは漁獲した翌々日となるため商品の鮮度面、価格面での競争力低下の要因となっている。このような課題に対して、2015年新函館への新幹線開通に向けて新幹線車両の一部を活用した水産物輸送システムが可能になれば、スルメイカ・アワビ・ウニなどの他10品目でみると価格が平均163%上昇（120%～210%）、年間の経済波及効果が22億2600万円と予測されるとのことでした。



※福井 邦幸氏：「北海道新幹線の現況について」

今までの新幹線延伸に対してどのような要請活動をし、PRをしてきたのか。そして一般の方たちにどのようにアピールして来たのかなどを報告していただいた。

※寺坂 伊佐夫氏：「新幹線時代の道南広域観光」

- ・ 函館観光は1998年をピークに減少傾向にあるがその原因は、観光客の受け入れ態勢が充実されていない点と有効なPR活動の欠如が原因である。
- ・ 道南にはクリスマスファンタジーや五稜郭タワーなどいろいろなイベントや施設があるが、道南の気質としてそれらを守り育てる風習が無いのではないか。道南気質の一新が必要である。
- ・ わが町の「かもめ島」（江差町）ではなく、桧山の「かもめ島」、道南の「かもめ島」というイメージを持つ必要がある。そのために各地にある観光協会を一本化する「観光大合併」を提唱したい。
- ・ 函館に赴任した社会人、函館の学校に入学した学生とその家族に函館の魅力を理解してもらい観光大使になってもらうことで市民総ぐるみの市民コンベンション活動を展開す

る必要性がある。

- ・新幹線開業に向けて、既存のJR路線の廃止代替案ではなく、合わせて地域生活バス路線等にも考慮した新幹線の二次交通網の構築が必要である。これによって広域観光の条件がそろい、点から面への観光が実現する。
- ・ロータリークラブの人的資産がそのパワーを生かす拠点となる必要性がある。

最後にコメンテーターの渡辺好明先生より、「新幹線の開通が目的の達成ではない。新幹線開通は単なるツールであり地域の活性こそが本来の目的である」と述べられた。

記念シンポジウムの内容が、身近でそして近い将来の問題であったこと、そして各パネリスト・コメンテーターの報告内容が非常にわかりやすかった事から、大変有意義な時間を過ごすことができたと考えています。

シンポジウム終了後の午後6時より会場を移し懇親会が開催されましたが、218名という多くのロータリアンの参加をいただき、和気藹々のうちに終了しました。



《IMについて》

1997年のDLP採用により、1998年版手続要覧からIMに関する記載は全て抹消されました。したがってIMは国際ロータリーの正式行事ではなく、現在海外ではIMを開催する地区はほとんど見当たりませんし、当地区においても一般地区資金からのIMへの助成金はなくなりました。このようなことからIMを開催するかどうかはガバナーの裁量で、各グループのガバナー補佐の意向に任されてはいるものの、懇親会を伴ったIM開催は予算的にかなり大変なものがあることも実情です。

そもそもIMの目的は、会員の親睦と知識を広げること、さらに会員にロータリー情報を伝え、奉仕の理想を勉強するために開催されますが、今日本は100年に一度といわれる世界的同時経済不況の中にあります。しかしながらこの大変な時期にあっても、多くのロータリークラブが会員減少という重大な問題を抱えながら崇高な奉仕の理想と会長の強いリーダーシップのもと、それぞれの地域に根ざした奉仕プログラムを立案・実践しています。

また、以前のように一般会員が共に顔を合わせる機会が少なくなったこと、会員数の少ないクラブが多くなって、一つの奉仕プログラムを複数のクラブで行うことも必要になる今だからこそ、IMを通して第10・11グループの会員が一堂に会し更なる親睦を深め、合わせてクラブ間の協調を図ることが必要であると考えます。

《おわりに》

この度のIMが、5年先、10年先の道南圏の未来を予想するものとなり、ロータリアンの活力を引き出す一助となることを祈念しています。

最期にIM開催にご尽力いただいた能戸IM運営委員長、田嶋IM実行幹事をはじめホストクラブの皆様、そしてお忙しい中コーディネーター・コメンテーター・パネリストを快くお引き受けいただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



特別寄稿

日本における正三の“職業倫理観”と
ロータリーの“職業奉仕”地区職業奉仕委員長 網木 保利
(苫小牧東RC)

ロータリー理念の核は「職業奉仕」です。ここで大切なことは、これは職業倫理の高揚という考え方のみを言っているのではなく、奉仕の心と実践が相俟っているということ。それを称してロータリーの専門用語として「職業奉仕」と言われています。

次に職業奉仕の目的は何か。「ロータリーの綱領」第2項によると社会に奉仕する機会を得るために、事業や専門職務に高い倫理基準を保って、世の中にとって有用である全ての職業の価値を理解して、ロータリアン各自の職業に重みを持たせよう。換言すると、企業の根底にある自分のための「利益＝儲け」と他人のための「奉仕＝感謝、恩返し」を一元的に捉えなければならず、企業を繁栄させようと思うなら、この「利己と利他のバランス」の実践が大切なのだと言っています。したがって、私達は職業倫理の高揚に努めるのではなく、職業奉仕実践の結果として高い職業倫理が発揚されるのです。これが原始ロータリーにおける一般奉仕理念であり、お馴染みのA・Fシエルドン(1868—1935)の「He profits most who serves best」(最もよく奉仕するもの最も多く報われる)に始まり、やがて1927年の四大奉仕の分化に伴って現在の職業奉仕に引き継がれてきました。この点を押さえた上で、本日のテーマを進めて参ります。

ところで、日本人が昔から身につけている職業観があります。その代表が鈴木正三(しょうさん)の“職業倫理観”です。あまり聞き慣れない名前かも知れませんが、本来の“職業奉仕”とは違いますが、今日はこれをご紹介します。

今から370年程前の徳川初期、正三は“勤労と禁欲”、商取引における利潤など、職業倫理を日本で初めて説き、日本の近代資本主義精神の形成に大きな影響を与えたことで知られています。

正三(1579—1655)は号を石平道人、通称“しょうぞう”と称していました。本名は“まさみつ”。三河の国(現愛知県)加茂郡足助の庄則定村の生まれです。宮本武蔵と同時代人で、先祖代々松平家に仕えており、また母は今川家の家臣(粟生筑前の守の娘)で、武家の長男ですが、自らは高橋70騎の中のある家を継ぎ、鈴木家は弟に継がせています。昔は戦で殺生が繰り返されるので、鎌倉時代あたりから霊を弔ったり、家の断絶を防ぐため、その家族の中から出家させるケースが多かったのですが、ともあれ、武蔵は剣の道の完成に生涯を捧げましたが、正三は剣を捨てて、禅僧としてその道を極めます。

17歳の時、「宝物集」～(涅槃経第十三)お釈迦様の前身である雪山童子(せっせんどうじ)の話～を読んで感激、真理を究めようとし、そして42歳の時、突然出家、出家後は「しょうさん」と改名し、諸方を行脚し、三州千鳥山や山中村石の平に庵を結び、“燻る生薪(いぶるなまたきぎ)”の荒行の頃にはついに発病し、命を落としかけますが、肉食の実行で助かります。彼の生き様は、生きてこそ修行。修行が成就しないと大勢の人間を幸せに出来ないと考えたのです。2年で体調が回復し再び肉食を止め、その後も活動を行う傍ら、「驢鞍橋」、「万民徳用」、「盲安杖」、「麓草分」などを書き記します。61歳で大悟し、そして1655年6月25日、実弟旗本鈴木重之邸で77歳の生涯を閉じました。

正三の職業倫理観は「職業即(イコール)仏行」で宇宙を主宰するのは仏。万物には仏性が宿っている。その人間が世俗で生きていくに当たっては、何も仏法の悟りを開かなくても、各人が自分の置かれた環境の中で

一瞬一瞬を大事にして、天から預かった自らの職分（天職）にひたすら励むことで、救済されるはずである、と考えました。

晩年になって、職業倫理について「四民日用」という書物を書き記します。四民とは、武士、農人、職人、商人のこと。最晩年には了心庵にて、この「四民日用」に「修行之念願」・「三宝之徳用」とを加えて「万民徳用」として刊行します。

この「万民徳用」には4つの特徴があります。①仕事に打ち込んで、しかも仕事にとらわれない境地の説明 ②思想が世俗社会に深く結び付く構造を持つこと ③職業倫理（心構え）としての勤勉と禁欲と余暇の構造を説明 ④日本で最も早く商業利潤の倫理化、正当化について書き記したという特徴を持っています。ただし、正三の教えは彼の独善によるものではなく日本には過去から連綿と続いてきた大乘仏教以来の思想があります。例えば「神様」。西洋では、神は創造主と崇められ、人間は神の僕ですが、日本では早くから太陽を重んじ、人間一人ひとりを神と捉えます。母を「お日（おかかorおかあ）」又は「お日身（おかみ）」その母を守る父を「お尊（おとう）」と呼び、日本人を太陽を基本にして生きる人として教育されてきました。太陽に感謝し、太陽のようにまあるく、明るく仲よく、和をもって尊しとなす、と。このような日本独自の精神的伝統を言語化し、体系化に成功したのが鈴木正三であり、彼は仏教（禅）の視点から職業人としての根本精神、すなわち禁欲的な経済倫理とそれを支える職業倫理（召命思想）、あらゆる職業はすべて神の救いの道である、と説いたのです。この自らの仕事に、ある種の間人形成の道や職業を通して世の中に貢献していると考えられる勤労観は、その後の石田梅岩や二宮尊徳、近江商人らに少なからず影響を与えています。

また、この正三の職業観は、ヨーロッパにおけるマックス・ウェーバーの「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」とも一致しているとして、中村元博士のほか大野信三、山本七平らによって広く内外に知られるようになりました。

日本では、最近特にこの職業倫理、勤労倫理を喪失又は見失ってしまった感がありますが、正三の教えは、人間の基本的な生き方が説かれており、職業を通じて自己を磨き、職業を通じて世の中の役に立つという日本人の職業観の原点がここにあるように思われます。もちろんこれは、当時の日本の民衆の中にも同じ職業観が生きていましたが、彼はこれを言語化、体系化したのです。しかもイギリスにおけるピューリタン革命の指導者だったバクスターが生まれたのは正三より40年程後のことですから、正三の説いた内容が如何に斬新なものであったかを、窺い知ることができます。

このような職業観がやがて270年後のシェルドンの説く職業奉仕理念と相通するのです。日本のロータリアンが職業奉仕に惹きつけられるゆえんであろうか。欧米ではロータリー財団100周年を8年後に控えて、人道支援に偏りがちですが、しかし、冒頭でも述べたとおり、ロータリーの職業奉仕はシェルドンの説く職業奉仕理念です。シェルドンの論文を読まずに職業奉仕を語ることはできません。さらにロータリー倫理訓や日本の過去の職業倫理について歴史を語り合うことも職業奉仕をより深く理解する上で参考になると思います。重要なことは、このシェルドンの職業奉仕を職業奉仕の原点として正しく認識することを基本としつつ、時代の要請に即応したあり方を身につけることで、結果として、現在の会員の保持につながるだけでなく、会員の量的増加と質的強化が実現できると思われます。ただ昨今の度を越えたマネーゲームや不祥事が後を絶たない現状を見るにつけ、心の問題として正三の職業倫理観は日本の伝統ある精神として日本が世界に発信できる、誇れるものであり、その意味で職業奉仕月間に因んであえてテーマに取り上げてみました。

今年の職業奉仕月間で地区委員長の綱木氏が各地のRCに呼ばれ卓話をされました。大変好評であったとうかがいました。（その後綱木氏とお会いする機会があり）そのまま終えるのも勿体ない話なので講話の草稿を戴き掲載したものであります。是非御高覧をお願いする次第です。尚詳細についてお知りになりたい方は綱木氏へ御連絡下さい。（地区代表幹事 大金武夫）

国際奉仕委員会ニュース

第19回 日本ロータリー親睦ゴルフ（JGFR）北海道大会開催のご案内

春光うららかな好季節となりました。皆様におかれましては益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。さて、今年も「第19回JGFR北海道大会」を下記要項にて開催致します。全国のロータリアン、家族の皆様とプレーを楽しみ、おおいに親睦を計りましょう。第2510地区会員皆様の参加をお待ち申し上げます。

実施要項

- 大会日時 平成21年6月22日（月）午前8時スタート予定
- 大会会場 ザ・ノースカントリーゴルフクラブ
所在地：千歳市蘭越26番地 0123-27-2121
- 参加資格 全国のロータリアン（及び家族・ゲスト）
- 競技方法 18ホールズストロークプレイ（新ペリア方式）
- 参加登録費 お1人：35,000円（夫婦で参加される方2名で65,000円）
（ゴルフプレー代金、景品代、懇親会費、通信費他を含む）
- 参加申込先 第2510地区ガバナー事務所 電話011-207-2510
札幌北ロータリークラブ 灰野 篁 携帯090-2697-7005
長太義雄 携帯090-8900-9184

第19回JGFR実行委員会

大会会長	矢橋 温郎（RI第2510地区ガバナー）
大会実行委員長	金子 賢一（岩見沢東ロータリークラブ）
大会副実行委員長	坂田 知樹（岩見沢東ロータリークラブ）
大会事務局	灰野 篁（札幌北ロータリークラブ） 長太 義雄（札幌北ロータリークラブ）

国際ロータリー第2510地区

親睦野球大会に参加して 新しくなった甲子園に行こう！！

野球を通じて親睦の輪を広げよう

第28回 全国ロータリークラブ甲子園親睦野球大会 出場決定戦のお知らせ

開催日程	平成21年9月5日（土） 前夜祭 平成21年9月6日（日） 試合日
開催場所	新ひだか町静内古川町1丁目1番1号 古川公園 野球場
ホストクラブ	静内ロータリークラブ

詳細につきましては、静内ロータリークラブまでご連絡をお願いいたします

新ひだか町静内吉野町3丁目1番1号 静内ウェリントンホテル内

TEL 0146-43-2481

FAX 0146-43-2495

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

■マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

留 萌 R C	中川 勝美 会員 (1回)	2月27日
滝 川 R C	和作 康市 会員 (1回)	3月27日
江 別 R C	金田 敏雄 会員 (1回)	2月20日
	柏尾 隆史 会員 (1回)	3月27日
	佐伯 宮彦 会員 (1回)	3月27日

■ポール・ハリス・フェロー

滝 川 R C	菅原 章二 会員	3月27日
	相馬 隆男 会員	3月27日
岩 見 沢 R C	竹内 友康 会員	3月31日
栗 山 R C	山崎 信治 会員	3月27日
静 内 R C	天野 晴緒 会員	3月20日
	大森 康正 会員	3月20日
森 R C	野田 剛 会員	3月13日

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

■米山功労者

滝 川 R C	川口 義弘 会員 (3回)	3月27日
	菅原 章二 会員 (1回)	3月27日
	鈴木 忠男 会員 (5回)	3月27日
札幌真駒内RC	柴田 薫心 会員 (1回)	3月19日

■米山功労クラブ

滝 川 R C	25回	3月27日
札幌真駒内RC	23回	3月19日

文 庫 通 信

(259号)

〔ロータリー文庫〕は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、2万余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

各地区ガバナー月信より

- ◎ [ようこそロータリーへ]
濱田 五左衛門 2009 3p (D.2800)
- ◎ [例会とロータリーの原理原則]
安孫子 貞夫 2009 1p (D.2800)
- ◎ [ロータリーの根本を考える]
井上 暎夫 2009 3p (D.2660)
- ◎ [Stigma 恥辱の烙印]
塚原 房樹 2009 2p (D.2510)
- ◎ [職業と奉仕]
近藤 雅臣 2009 2p (D.2660)
- ◎ [ロータリーの職業倫理訓逐条解説(7)~(9)]
青木 伸翁 2009 3p (D.2770)
- ◎ [識字率向上は世界平和への道]
諏訪 昭登 2009 2p (D.2710)
- ◎ [『ロータリーの森』とその後]
好川 嘉則 2009 1p (D.2650)

[上記申込先：ロータリー文庫(コピー/PDF)]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F
TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506

http://www.rotary-bunko.gr.jp
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

5月のロータリーレート 1ドル=98円

新 入 会 員 の ご 紹 介 (敬称略)



オイドフ・
バトバヤル
(札幌大通公園RC)

■入会/
09年4月1日
■職業分類/
弁護士秘書



秋葉 睦子
(札幌大通公園RC)

■入会/
09年4月1日
■職業分類/
結婚コンサルタント業



橋口とも子
(札幌大通公園RC)

■入会/
09年4月1日
■職業分類/
ガス供給業



中村 淳溢
(砂川IRC)

■入会/
09年4月1日
■職業分類/
ポリエチレン成型



瀬戸賢一郎
(岩内RC)

■入会/
09年4月2日
■職業分類/
生命保険



金子 雅
(岩見沢RC)

■入会/
09年4月9日
■職業分類/
信用金庫



樋口 道紘
(江別西RC)

■入会/
09年3月24日
■職業分類/
郵便業



望月 孝一
(伊達RC)

■入会/
09年4月7日
■職業分類/
電気工事



武田 司
(札幌モーニングRC)

■入会/
09年3月11日
■職業分類/
建築工事

訃 報



寄木清二 会員(室蘭東RC)
2009年2月15日逝去(享年60歳)

【ロータリー歴】
1988年9月 入会
1995～96年度 幹事
2002～03年度 幹事
2004～05年度 地区幹事
2006～07年度 会長
その他各委員長歴任

ポール・ハリス・フェロー
米山功労者
20年間100%出席



竹内敏雄 会員(恵庭RC)
2009年3月21日逝去(享年83歳)

【ロータリー歴】
1996年7月 入会
環境保全・広報・職業分類委員長
歴任

出席率・会員数

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2008.7.1	2009.3.31	増減	内女性	
1	深 川	4	36	35	-1	3	86.29
	羽 幌	4	48	48	0	1	90.22
	妹 背 牛	4	9	9	0	0	77.78
	小 平	3	14	13	-1	0	79.49
	留 萌	4	45	43	-2	0	86.59
	小 計		152	148	-4	4	84.07
2	赤 平	4	29	28	-1	1	98.00
	芦 別	4	44	37	-7	0	88.51
	砂 川	4	52	55	3	0	97.66
	滝 川	4	99	100	1	2	80.00
	小 計		224	220	-4	3	91.04
3	美 唄	3	38	37	-1	0	85.10
	江 別	4	34	33	-1	1	88.24
	江 別 西	4	27	31	4	3	84.32
	岩 見 沢	4	87	89	2	0	88.22
	岩 見 沢 東	4	34	33	-1	4	82.05
	栗 沢	4	23	23	0	1	91.30
	栗 山	4	26	25	-1	2	96.00
	当 別	5	34	33	-1	0	87.80
	小 計		303	304	1	11	87.88
4	札 幌	3	117	120	3	0	98.77
	札幌あけぼの	3	18	16	-2	1	100.00
	札幌はまなす	4	25	20	-5	4	78.57
	札 幌 北	5	43	42	-1	6	92.37
	札幌モーニング	4	49	52	3	0	74.51
	札 幌 西	4	62	62	0	4	96.42
	札 幌 西 北	3	39	38	-1	5	94.73
	札 幌 手 稲	3	34	34	0	1	96.08
	小 計		387	384	-3	21	91.43
5	札 幌 東	3	120	120	0	0	96.80
	札 幌 清 田	4	18	18	0	4	100.00
	札 幌 幌 南	3	65	64	-1	0	100.00
	札 幌 真 駒 内	4	35	35	0	4	94.94
	札 幌 南	5	92	86	-6	0	97.07
	札幌大通公園	5	9	9	0	2	88.90
	札幌セントラル	5	14	13	-1	6	66.15
	新 札 幌	3	32	30	-2	3	87.01
	小 計		385	375	-10	19	91.36
6	岩 内	4	21	20	-1	0	86.25
	俱 知 安	4	46	44	-2	4	62.50
	小 樽	4	69	67	-2	0	83.33
	小 樽 南	3	73	72	-1	0	83.11
	小 樽 銭 函	4	21	22	1	2	72.00
	蘭 越	5	11	11	0	0	81.31
	余 市	4	39	40	1	4	88.30
	小 計		280	276	-4	10	79.54

3月出席率・会員増減数

クラブ数	73クラブ
期首会員数	2,816人
当月末会員数(女性)	2,797人(104人)
増加会員数	-19人
当月平均出席率	85.88%

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2008.7.1	2009.3.31	増減	内女性	
7	千 歳	3	63	63	0	3	78.30
	千歳セントラル	4	35	38	3	2	83.10
	恵 庭	4	39	37	-2	0	79.66
	北 広 島	5	17	17	0	0	82.35
	長 沼	4	20	20	0	3	78.00
	由 仁	4	10	11	1	1	82.50
	小 計		184	186	2	9	80.65
8	え り も	4	22	23	1	0	93.43
	三 石	5	15	15	0	1	97.33
	様 似	4	23	24	1	1	93.30
	静 内	4	72	73	1	1	79.25
	浦 河	5	34	34	0	2	81.18
	小 計		166	169	3	5	88.90
	9	伊 達	4	53	55	2	0
室 蘭		4	43	44	1	0	64.53
室 蘭 東		4	41	37	-4	0	90.98
室 蘭 北		5	34	38	4	3	100.00
登 別		4	31	32	1	2	83.87
洞 爺 湖		4	9	9	0	0	92.00
小 計			211	215	4	5	84.32
10	函 館	4	87	83	-4	0	75.04
	函 館 亀 田	4	45	42	-3	2	97.58
	森	4	34	35	1	0	72.90
	七 飯	4	16	17	1	0	64.70
	長 万 部	4	10	9	-1	0	74.90
	函館セントラル	4	24	25	1	1	78.26
	小 計		216	211	-5	3	77.23
11	江 差	4	19	19	0	2	72.00
	函 館 五 稜 郭	4	55	54	-1	0	99.36
	函 館 東	4	45	46	1	4	83.08
	函 館 北	4	30	30	0	0	95.00
	北 斗	4	19	17	-2	2	66.20
	松 前	3	5	5	0	0	80.00
	小 計		173	171	-2	8	82.61
12	白 老	4	26	29	3	0	86.10
	苫 小 牧	3	50	49	-1	2	92.37
	苫 小 牧 東	4	25	26	1	2	95.16
	苫 小 牧 北	4	34	34	0	2	95.41
	小 計		135	138	3	6	92.26
合 計		2,816	2,797	-19	104	85.88	

地区カレンダー（5月・6月）

5 月	
1 (金)	
2 (土)	
3 (日)	憲法記念日
4 (月)	みどりの日
5 (火)	こどもの日
6 (水)	振替休日
7 (木)	
8 (金)	
9 (土)	
10 (日)	
11 (月)	
12 (火)	
13 (水)	
14 (木)	
15 (金)	
16 (土)	長沼町国際交流フェスティバル（長沼）
17 (日)	深川 R C 創立50周年記念式典及び 第1グループIM（深川）
18 (月)	
19 (火)	
20 (水)	
21 (木)	
22 (金)	
23 (土)	
24 (日)	
25 (月)	
26 (火)	
27 (水)	
28 (木)	
29 (金)	
30 (土)	羽幌 R C 創立30周年記念式典（羽幌）
31 (日)	

6月 ローターリー親睦活動月間	
1 (月)	
2 (火)	
3 (水)	
4 (木)	
5 (金)	
6 (土)	
7 (日)	
8 (月)	
9 (火)	
10 (水)	
11 (木)	
12 (金)	
13 (土)	
14 (日)	2009-2010地区会員増強セミナー（札幌） 新旧ガバナー補佐・地区委員長合同引継ぎ会議（札幌）
15 (月)	
16 (火)	
17 (水)	新札幌 R C 創立25周年記念式典（札幌）
18 (木)	
19 (金)	
20 (土)	白老 R C 創立30周年記念式典（白老）
21 (日)	国際大会（英国・バーミンガム）
22 (月)	国際大会（英国・バーミンガム） 第19回JGFR北海道大会（千歳）
23 (火)	国際大会（英国・バーミンガム）
24 (水)	国際大会（英国・バーミンガム）
25 (木)	
26 (金)	
27 (土)	
28 (日)	
29 (月)	
30 (火)	2008～2009年度 終了

《例会曜日・例会時間・例会場の変更等について》

- 砂川RC：5月6日(水)休会
5月20日(水)夜間例会「観桜夜間例会」18:30～ 場所：砂川パークホテル
- 江別RC：5月7日(木)休会
5月21日(木)移動夜間例会 19:00～ 場所：原始林観光(江別市文京台31-4)
5月28日(木)移動例会 12:30～ 場所：勤労者研修センター(江別市緑町西1丁目103)
- 江別西RC：5月5日(火)休会
5月12日(火)夜間例会「観桜夜間例会」18:30～ 場所：トンデン館
5月19日(火)移動早朝例会「合同清掃奉仕活動」06:45集合 場所：野幌運動公園
- 岩見沢東RC：5月5日(火)休会
- 小樽RC：5月5日(火)休会
- 小樽南RC：5月1日(金)休会
5月15日(金)移動夜間例会「お花見(夫人同伴)」18:00～ 場所：朝里宏楽園
5月29日(金)移動早朝例会「ラジオ体操」06:30～ 場所：小樽公園見晴らし亭
- 室蘭北RC：5月5日(火)休会
- 苫小牧RC：5月1日(金)休会
5月15日(金)の例会を下記に変更
5月13日(水)移動夜間例会「お花見例会」18:00～ 場所：グランドホテルニュー王子

閑話休題

去る4月12日、滝川において地区協議会が開催されたが、滝川という地での初めての地区協議会ということで、ホストである滝川IRCの皆さんの並々ならぬ意気込みを感じられた。渡邊恭久ガバナーエレクトの人望も寄与されているものと思われるが、一丸となって事に当たられている様子は、誠にすがすがしいものであった。

午前中のセッションでは、渡邊ガバナーエレクトからRIの方針説明と地区の方針説明があったが、プロジェクターを使いサンディエゴでの風景など取り混ぜて平易な言葉を使われて行なわれ、参加者の理解を促す気配りが感じられた。

また、塚原房樹地区研修リーダーによるロータリーのお話は、坦々とした口調の中に実に味のあるお話が山ほど盛り込まれており大いに勉強となった。昨年7月よりガバナー月信への寄稿シリーズで、その知識の豊富さには感動を覚えていたが、今回のお話により、それは畏敬の念となった次第である。

午後の分科会では、それぞれの部門が大いに実のある話で充実していたと思われるが、会長部門では、予算の承認がスムーズに進み、渡邊ガバナーエレクトの安堵のお顔が微笑ましくさえた。しかしながら、地区の財政の逼迫は大いに気になるところである。

地区協議会の締めめのガバナー所感では、矢橋温郎ガバナーのウィットに富んだお話で会場のムードもすっかり打ち解けたものとなり、散会となった。滝川IRCの皆様には感謝の一言であるが、秋の地区大会ではもう一肌脱いでいただく事になるかと期待している。

クラブ会長エレクト、地区幹事、地区大会副幹事の他に地区GSE委員にまでロータリー活動に足を突っ込んでしまった今年度であるが、残りも2ヶ月と少々。

この間に地区幹事としては月信をこの号を含め3回と地区大会副幹事として地区大会記録誌の編纂と会計の清算、それにクラブ会長エレクトとして次年度事業計画の取り纏めをしなければならない。その上、佐々木ガバナーノミニより次年度地区協議会のホストクラブの依頼を受けてしまい、さらには、次々年度には当クラブの創立50周年を迎えるということで、当面はロータリー活動から抜け出せそうも無い。

しかしながら、自営業の身、時間に気楽な反面、自分の食いつ持は自分で稼がなければならず、業界の役職も引き受けてしまい、どのように時間を工夫できるか、誠にスリルとサスペンスに富んだ1年となりそうである。(石丸)

編集後記

地区挙げての集大成は地区大会である。それに次ぐイベントは年度前に行う数多くある研修会合の中でも大規模な地区協議会である。当地区では総勢5百数十名に及ぶ。新年度より始まるクラブ活動を効果あるものにするための勉強会である。地区内73クラブの精鋭集団ここに集まれの観。時は4月12日。空知の中核都市、滝川であった。

幹事部門では昨年の例に倣い、神部リーダーより冒頭いくつかの質問があった。列挙すると ①幹事に2度以上就任されている人は? ②クラブ事務所を設置もしくは専任の事務員を雇っているか? ③CLPを採用しているか? ④ホームページ、メール連絡等IT他の進行状況。答は①は73クラブ中14名、②は事務所も事務員もいないクラブは17クラブ、③は10クラブ、④は凡そ3分の2であった。結果から判断するに小規模クラブの幹事さんは大変ご苦労の様子である。何分、1人で全てのクラブ・マネージメントを消化しているからであり反面、都会の大規模クラブはプロの事務員にドブツリ依存している構図が浮か

んでくる。それぞれ事情があるにせよ複雑な思いに至る。柔らかめの話。地区協議会の前夜に分科会のリーダー、サブリーダー、アドバイザーの打合せ会議を終え、夕食後街へ繰り出した。ロータリーご用達の店は大繁盛というのは、遠路前泊の他クラブメンバーがそれぞれ押し寄せ互いに交歓し、正にクラブを超えた広域の俄かファイアサイドミーティングと相成った。翌日の地区協議会を気にしながら席を変えながら相手を変えながら談論風発、正に呉越同舟。愉快な一夜であった。

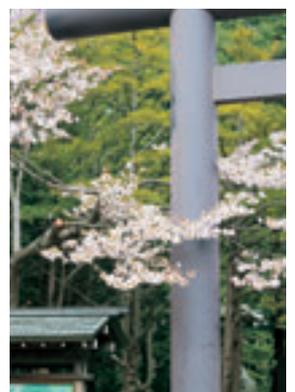
次いでもう一席。ホストクラブに感謝。全体会議、部門別会議等、次々に変る会場設営、移動、案内誘導、運営管理、茶菓接待と大変目まぐるしい次第を、研修成果をあげるべく細田会長をはじめ滝川IRC会員全員出席でのご努力に参加者全員を代表して衷心より御礼を申し上げる次第。更に10月には地区大会で大挙して押し掛け、又々お世話に相成る事となるわけで楽しみである。(大金)

ガバナー事務所

〒060-0042 札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F TEL (011) 207-2510 FAX (011) 207-2512
E-mail: rid2510@nifty.com 執務時間: 10:00~17:00(土・日・祝祭日休み)



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510
2008~2009
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



表紙：北海道神宮の桜
撮影：田宮哲夫 札幌西RC